

(1)

ニンテダニブ治療中に気胸を繰り返した特発性肺線維症の一例

中谷悠 塩津伸介 田中駿也 辻泰佑 弓場達也 内匠千恵子

全著者所属先：京都第一赤十字病院 呼吸器内科

(2)

症例は 80 歳男性．特発性肺線維症でフォロー中に撮影した胸部 CT で，両側肺底部に蜂巢肺を形成する線維化の進行を認め，ニンテダニブ内服を開始した．8 ヶ月後に気胸を発症したが，ニンテダニブの休薬と床上安静で速やかに改善した．その後ニンテダニブを再開したが，5 ヶ月後に再度気胸を発症した．胸腔ドレナージや胸膜癒着術による気胸の修復を試みたが難治性であり，手術で改善を得た．しかし術後肺炎を合併し最終的に死亡した．気胸リスクが高い症例においては，ニンテダニブの投与について慎重に判断する必要がある．

(3)

ニンテダニブ (Nintedanib)

特発性肺線維症 (idiopathic pulmonary fibrosis)

気胸 (pneumothorax)

肺機能 (pulmonary function)

気腫性変化 (emphysematous change)

ニンテダニブ治療中に気胸を繰り返した IPF